

皐月 愛南文芸

篠南川柳会

「雪」

節分を過ぎてつめたい細目雪

悪政に季節外れの雪が降り

どの竹も雪をかぶってイナバウワー

氷点下梅は咲いたが牡丹雪

雪まつり行つて見たいが寒すぎる

雪の日は食べたり寝たりコタツ守り

雪かきをする程降らぬ正木地区

雪やなぎたった一人の卒業児

雪国へようこそ嫁に行かなんだ

菊川俳句会

落花てふ半島へ行く路線バス

風光る海の匂いのバス通り

青空に風車くつきり山笑う

収穫を心待ちして豆の花

いたずらな春風センターラインとす

もっちゃん

芝田

すみ子

千代子

ちずる

さつき

みち子

保美

安子

浅野勇一郎

長田 高明

長田千恵美

小野山シマ子

鶴川 裕子

桜鯛ハサミでさばく新世代
また一つ歴史刻みて桜散る

縁側の昔語りや山笑う

何歳になつても子は子母子草

さわらび短歌会

先がけて角ぐむ花梨の稚き芽に雨風冷たしきのうも今日も

贈りたる高野悦子の遺作集「二十歳の原点」君憶へるや

夕光に桜舞い散る肩に背に吾が終の日もかくぞありたし

「爺ちゃんぞ」と語りかけては孫あやす七十五歳になりて初孫

子孫をば残さんとてか寒に耐え小さなままの大根の花

枯れ草の下に首まげ初蔵手折る感触傾りに楽しむ

ジーンズの小さなズボンなどはいて曾孫来りぬ花吹雪く日に

連休に帰つて来るよと猫の背を幾度もなでて孫は旅立つ

苺ジャム煮るつかの間を聴くコーラスどじよつこふなつこ、からたち日記

蠢いて黒き水鳥満ち潮に逆らいながら海中をさす

沢水は養分蓄え川床のぐり石抱える青海苔育む

中川 一喜

西川 和代

村尾加都子

安岡留美子

松本マズ子

藤井 擴

岩村千代子

澤近 正弘

野崎 幸子

扇野八代生

前田 充

河上 明美

前田 知子

水野美代子

前田 昭夫

はじめまして。赤ちゃん。

3月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

3月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。